

愛媛県の地震

2020年（令和2年）10月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図…………… 1
2. 地震概況（10月）…………… 1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（10月）…………… 2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震
の震度分布図（10月）…………… 2
5. 地震一口メモ「愛媛県内で過去に
大きな被害を及ぼした地震」…………… 3

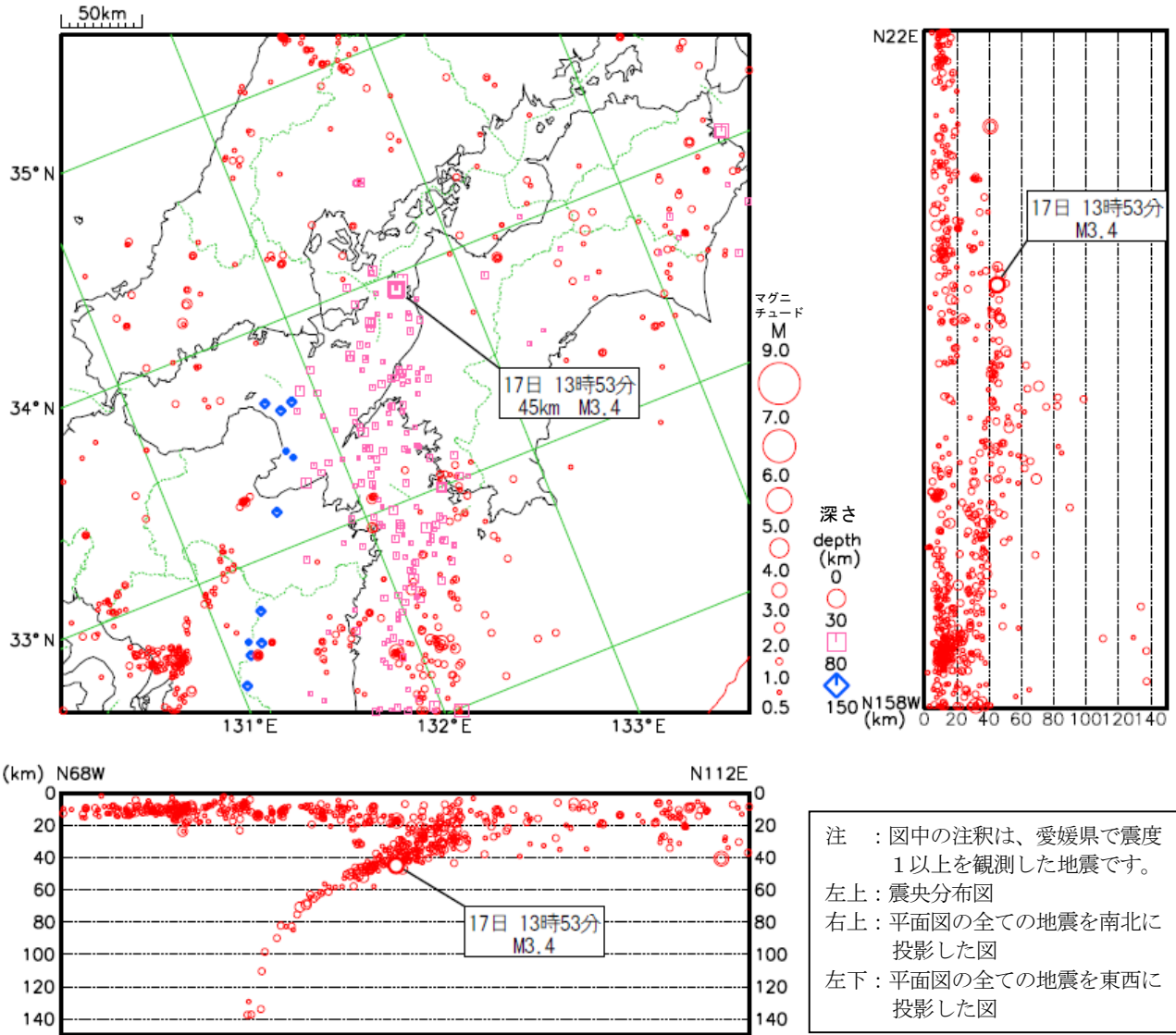
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2020年10月1日~10月31日]



注 : 図中の注釈は、愛媛県で震度1以上を観測した地震です。
 左上 : 震央分布図
 右上 : 平面図の全ての地震を南北に投影した図
 左下 : 平面図の全ての地震を東西に投影した図

震央分布図は地震が発生した場所を地図上でプロットしたものです。地震は地下で発生しますのでシンボルマークの形を深さに応じて変えています。○より◇の方が深い場所で発生した地震です。
 また、シンボルマークの大きさと地震の規模(マグニチュード)を表現しています。

2. 地震概況 (10月)

今期間に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうちM2.0以上の地震の回数は38回(先月は47回)、愛媛県内で震度1以上を観測した地震は1回(先月は1回)でした。

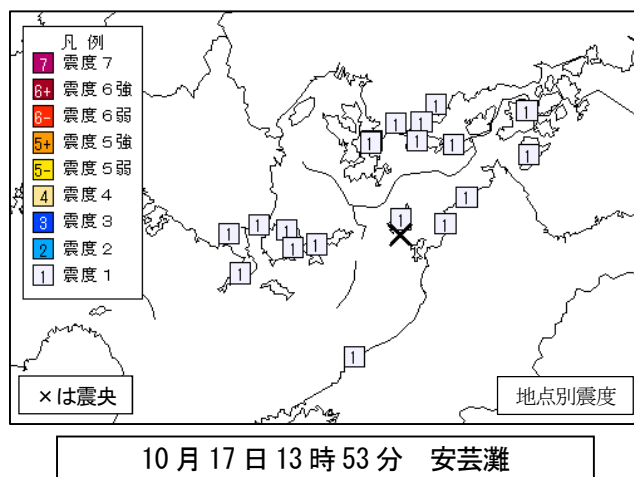
17日13時53分 安芸灘の地震(深さ45km、M3.4)により、愛媛県今治市・松山市・大洲市、広島県呉市、山口県柳井市・上関町・平生町・周防大島町で震度1を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（10月）

震源時（日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
愛媛県内各地の震度						
2020年10月17日13時53分	安芸灘	33° 55.7' N	132° 37.7' E	45km	M3.4	最大震度1
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 1：今治市菊間町*、今治市吉海町*、今治市上浦町*、松山市北条辻* 松山市中島大浦*、大洲市長浜*						

注：*印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図（10月）



5. 地震一口メモ

愛媛県内で過去に大きな被害を及ぼした地震

前月の「地震一口メモ」では、中央構造線断層帯の活動について述べましたが、活断層で発生する地震は発生間隔が長く、例えば石鎚山脈北縁西部区間の最新活動時期は「15世紀以降から18世紀以前」とされています（地震調査研究推進本部）。今回は、主に近代以降で愛媛県に被害を及ぼした地震について解説します。1921年以降の過去100年間の地震活動をみると、愛媛県内で震度4以上を観測した地震は35回発生しており、そのうち6回の地震で震度5弱以上（震度5を含む）を観測しています（下表参照）。

表 愛媛県内で過去100年間に震度5弱以上を観測した地震

	地震の発生日時	震央地名	緯度	経度	深さ	M	愛媛県内の最大震度
1	2016/04/16 01:25:05.4	熊本県熊本地方	32°45.2'N	130°45.7'E	12km	M7.3	5弱
2	2015/07/13 02:52:05.9	大分県南部	32°59.5'N	131°51.3'E	58km	M5.7	5弱
3	2014/03/14 02:06:50.8	伊予灘	33°41.5'N	131°53.4'E	78km	M6.2	5強
4	2006/06/12 05:01:24.9	大分県西部	33°08.1'N	131°26.1'E	145km	M6.2	5弱
5	2001/03/24 15:27:54.5	芸予灘	34°07.9'N	132°41.6'E	46km	M6.7	5強
6	1968/08/06 01:17:06.3	豊後水道	33°17.8'N	132°23.5'E	39km	M6.6	5

これまでに愛媛県に被害を及ぼした地震は、次の3つのタイプに大きく分類できます。

- ① 瀬戸内海の西部や豊後水道付近のやや深い場所で発生する地震
- ② 南海トラフ沿いで発生する地震
- ③ 陸域の浅い場所で発生する地震

過去100年間に愛媛県内で震度5強の激しい揺れを観測した地震は2回ありますが（表参照）、これらの地震は上記①のタイプに該当します。このうち約20年前に発生した「平成13年（2001年）芸予地震」では、右図のように、愛媛県の最大震度である震度5強を広い範囲で観測しました。この地震では愛媛県内で死者1名・負傷者75名・家屋全壊2棟などの被害を及ぼしました（総務省消防庁による）。

一方、上記②のタイプに該当する過去の地震では、四国沖から紀伊半島沖が震源域となった場合は、愛媛県でも激しい揺れや津波によって甚大な被害を及ぼした事例があります。愛媛県の過去を遡ると、1707年に宝永地震（M8.6）、1854年に安政南海地震（M8.4）が発生した他、1946年の南海地震（M8.0）では、愛媛県内で死者26名などの大きな被害が生まれました（「日本被害地震総覧」による）。

愛媛県では上記の3つのタイプの他に、1960年にチリで発生した地震に伴う津波が押し寄せるなど、海外の地震によって、津波被害をもたらされたこともあります。

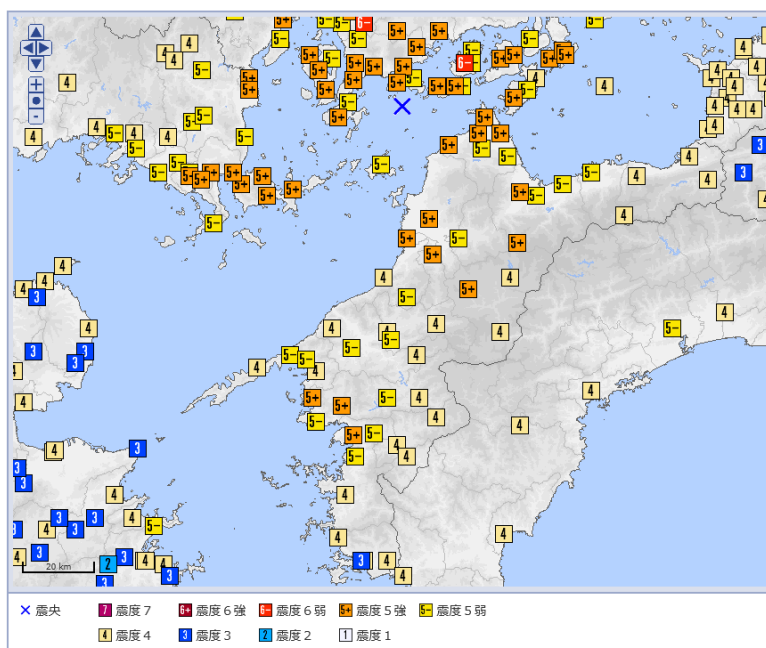


図 「平成13年（2001年）芸予地震」の地点別震度分布図